

# 経済政策論 A

—経済政策論 A の概要—

山田知明

明治大学

2024 年度講義ガイダンス



# 経済政策論 A・B の講義範囲

- 経済政策論 A・B で何を学ぶのか?
  - 『経済政策論』という研究分野は存在しない
    - 「私は経済政策の専門家です」という人はいない
    - 経済学関連課目 (明治大学商学部で開講されているもの以外も含めて) のほぼあらゆる場面で政策に関わる議論がある
  - 例：応用マクロ経済学、応用ミクロ経済学、公共経済学、財政学、金融論、国際金融・国際貿易 (=国際経済学)、産業組織論、景気変動論、社会保障論、政治経済学 etc
    - ⇒ 経済学のほぼ全てのトピックをカバーしないといけない
    - ⇒ 非現実的：講義時間 & 教員の能力
- 方針：既に関講されている課目との重複は極力避ける

# 経済政策論 A・B の範囲

- 経済政策について議論する目的
  - 望ましい政策 (=最適政策) とはどのようなものか？
    - **パレート改善**：ミクロ経済学
    - どういう政策が効果があるのか？
    - どの程度、効果があるのか：○%の GDP 上昇
  - 経済政策がいつ、だれにとって必要なのか？
  - 誰が便益を得て誰が損失を被るのか：一貫した理論が必要
- この講義のゴール
  - 現状把握 (統計データ・制度)
  - +
  - ミクロ・マクロ経済学に基づく理論的基礎

# 経済政策論 A・B の範囲 (続き)

- マクロ経済政策を中心に講義をする
  1. **経済政策論 A (短期)**：景気対策、財政・金融政策
  2. **経済政策論 B (長期)**：経済成長、社会保障制度、経済格差 etc
    - ミクロ経済政策の例 ⇒ 公共経済学、産業政策論
    - 必要な時に適宜、ミクロ経済政策にも言及予定
- この講義の特徴
  - 理論にウェイトを置く
    - (一応) 公務員試験の範囲にもなっている
    - ただし、公務員試験対策をするわけではない
  - 最先端の研究成果を可能な限り紹介する
    - 経済学は常に進化している

# 『経済政策論』の範囲 (続き)

- 理論的分析と実証的分析の両面からアプローチ
- **経済モデル**を理解する
  - モデルは現実の抽象化であり検証可能
  - 検証のためにはデータに関する理解が必要
- なぜ経済政策を学ぶ必要があるのか？
  1. 政策当局者にとっては実際的问题
  2. 我々の世界を理解するため
  3. 政策当局の意図及び間違いを理解するため
- 最近のトレンド：Evidence-based Policy Making (EBPM)

# テキスト・参考文献

- マクロ経済学
  - 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田彰久『マクロ経済学』有斐閣
  - David Romer (2018) "Short-Run Fluctuations"
- 経済数学
  - 尾山大輔+安田洋祐『[改訂版] 経済学で出る数学』日本評論社
- リーディングリスト
  - [https://tomoakiyamada.github.io/courses/economic\\_policy\\_a/](https://tomoakiyamada.github.io/courses/economic_policy_a/)

# 講義スライド

- スライドは Oh-o!Meiji から各自ダウンロード
  - オンラインの場合、講義動画アドレスも一緒に掲載

# 成績評価について

- **以下、シラバスに書いてある内容**
- 定期試験 (70%)
  - 人数に応じて期間内試験の可能性あり
  - ウェブベースの小テスト (Oh-o!Meiji 経由) はこちらに加算
- レポート (30%)
  - 講義でカバーできないトピックを自分で勉強してもらう



# 数学的準備

- 出来ないことを大前提としています
- しかし、**理解しようとする努力は必要!**
- 数学を使うときには事前に説明します
  - グラフの読み方
  - 例：関数とは？

$$y = f(x)$$

- 若干の統計学に関する知識：平均、分散 etc.

# 経済政策論の目的

- 全ての人々が幸せになる経済政策はあるのか？
  - 大前提：そういった政策を追求することは大事
  - 見つかったら「実行あるのみ！」
    - そんなものが簡単に見つかるのであれば「授業で話していないで早く実行すればよい」になる
    - そのため、多くのケースでそういった政策は簡単にはみつからない(そもそも存在しないかも)
  - 全ての人々が幸せになるなら、意見の対立は生じない(はず)
- 残念ながらそうではない問題が多々ある
  - 例：社会保障における世代間の負担
  - 多くの政策では受益と負担のバランスを考える必要あり

# 経済政策論の目的 (続き)

- 経済政策を考える上で重要な軸・視点の例
  1. 市場と政府：資源配分機能と安定化機能 (経済政策論 A)
    - 市場に任せるか、政府が介入するか
  2. 短期と長期：景気循環と経済成長 (経済政策論 A & B)
    - 景気対策か、成長戦略か
  3. 効率性と公平性：所得再分配機能 (経済政策論 B)
    - 誰に負担をしてもらうのか？
  4. 現役世代と将来世代：異時点間の資源配分 (経済政策論 B)
    - 昔と比べて今の人達は損をしている？

# マクロ経済の安定化

## 短期 (Short-run)

- 景気の状態を微調整 (ファインチューニング)
  - 例：アベノミクス第 1 の矢&第 2 の矢
  - 経済の舵取り：いわゆる”景気対策”
- 財政政策
  - 財政支出拡大で景気を刺激・回復 (ケインズ政策)
    - 総需要管理政策
    - 国の借金が増えていく...
  - 累積債務と財政の維持可能性
    - 消費税増税 etc.

# マクロ経済の安定化 (続き)

## ● 金融政策

- インフレ・デフレをコントロールして物価を安定
- 具体的に何をしているのか？
  - 金利/マネーサプライをコントロール
  - 植田総裁：マイナス金利政策を解除
- 金融システムの安定化・監視
  - BIS 規制

## ● 財政・金融政策に関する最近の議論

1. 「質的・量的緩和政策とゼロ金利」の解除
2. そもそも何をやっていた？：将来の予想・期待の役割
3. 景気対策、特に財政政策は効いてるのか？

# 経済成長・経済発展

注意：経済政策論 B の内容です

## 長期 (Long-run)

- 「何故、我々はこんなに豊かで、彼らはあのように貧しいのか (Why some are so rich and some so poor) ?」
  1. 「体重を増やさないことに多額の金を費やす国」
  2. 「生きるために食べる国」
  3. 「次の食事がどこで手に入るかもわからない国」
    - D.S. ランデス (2000) 『強国論』 三笠書房

# 経済成長・経済発展 (続き)

- 経済成長のエンジンはなにか？
  - 資本蓄積：貯蓄及び投資
  - 人的資本：教育
  - 生産性：技術革新
- 経済成長を高めるための政策
  - インフラ整備、教育、R&D 投資、特許 etc.
  - 民主主義、投票制度、財産権 etc.
- 社会保障制度
  - 少子高齢社会：公的年金、健康保険、介護保険 etc
  - 少子化対策
  - 家族の経済学
- 短期と長期の両面から経済政策を考える

# 経済政策に関わる経済学者達

- 大統領経済諮問会議
  - N.G. Mankiw, L. Summers, etc.
- 中央銀行
  - B. Bernanke (Chair), J. Yellen (Chair), M. King (BOE), N. Kocherlakota (Fed), C. Plosser (Fed), etc.
- 世界銀行、IMF
  - J. Stiglitz, O.J. Blanchard, R. Rajan, P.O. Gourinchas, etc.
- X(Twitter) 等の SNS で “本物の” 経済学者がどんなことを考えているのかを読むのも勉強になる
  - 例えば、Taisuke Nakata さん、Fuhito Kojima さん